
~小春日和~

時雨

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

～小春日和～

【著者名】

N4302B

【作者略】

時雨

【あらすじ】

幼なじみの伊月と、また同じクラスに！？でも、いつも余る伊月にいつしか引かれていく…？

第一話：また「イツ！？」

「ジリリリリリリリ...」 「ん...なに...?」

ボチ

「あかつゝ屋刻するおひ

「ああ～～～！！」

一度寝なんかしてる場合じやないよお！！

「あかりが起きなかつただけでしょうがー！早くゴ飯食べなさいー！」

「いいよ！ 急いでるから、ご飯いらないーーー！」 もあー……

「おまえ、おまえのやうな人間には、おまえのやうなことをやる筋合はない。」

クラス 誰と同じかなあ?

「おはよ！和海！美月！」

卷之三

「私達は一緒に生きるんだから、あかりは『あたしは』？」

離れちやつた

「そつかあ、残念」

「これ見て」

げつ！また伊月と

「よつーあかりつ！」

「あー、

「また一緒にだな！！」

「だね……」

「おつとーお二人の邪魔なようですねえ……」

「ちょ……和海！美月？」

「どうぞここからは、一人でラブラブしてくださいね～」

「そんなんじやねえ～よ！！大体俺がこんなバスとラブラブな訳ないだろ！？」

「ちょ……！？」

「バスって何よ……！」

「少し傷つくな～～～キーンコーン～～～

「あつ～やば～～！あたしは2～4組だ！」

「みんな～今日から担当の赤坂みつるだ～よろしくな～～～」

「はりきつてるなあ～～～

「まずは教科書を配るぞ～～～」

第一話 初めての気持

「なあ……あかり……？」
突然伊丹が話しかけた

「何？」

「せつめは……言こ過ぎた……」「あん……」

「別に……いこけど……」

「せつか！ならよかつたーーー！」

「空氣読めよ……」「ちょつとは傷ついたけど……」

「せつか……」「めんな……」

「ドキッ……あれ……なんで今ドキッて来たんだ？」「ビックしたか

…？」

「あつ……つりん……なんでもないよーーー！」

「ならいんだけど……」

「どうしちゃったんだろう……私……」

それからも、伊丹としゃべると、ドキドキした……なんで……？私もしかしして伊丹が！？……そんなはずないよ……伊丹はただの幼なじみ……ありえないよ……お姉ちゃんに相談しよ……

「ただいまー！」

「お帰り～」

「あつーお姉ちゃんー聞きたい事があるんだけど……」

「なあに？」「恋つて、ドキドキするもんなの……？」

「……へん……人によるよお～」

「せつか……」

「何? あかりちゃん… もしかして、好きな人が!…?」

「あひ…、違つよお姉ちゃん!… ただ聞いてみただけ…」

「あら… つまんないの!」

「…お風呂入つてくる…」 「ふう~」

チャポン…

「お姉ちゃんつて…恋愛マスターなのかな…?」

「伊月は…今何してるのかなあ…」

… !わたし何考えてんの…? …

伊月はただの幼なじみなのに…なんか…明日奈つのが気まずくなつてきちゃつた…でも…たしか…あずさが…伊月の事好きだつたよつた…伊月は…私やあずさの事…どう思つてるんだろ…?

第三話・すれちがう気持ち

「おはよ！あかり！」

卷之三

「もういいよ！話かけただけなのに…」

「中央！おはよー！」

卷之三

あずけ伊月としゃべつてゐるといな

讀文三集

別に、気にしてないし

「氣にしてねえって言つてるだろ！」

「おん……言へ過だた……」

卷之二

ぐすん

九月三十日

「弱」などと並んで一歩

「嘘だ～…お姉ちゃんに話していいんだ？」

「うん…実はさあ…伊月にひどい事言われて…」

「そんな事ですねーんのー?」

「そんな事つてなによー!ー!」

「伊月君…好きなんでしょ…?」

「どうしてわかるの…?」

「あかり…好きなら好きって言えば?..」

「でも…あずさも、伊月の事が好きなんだよー?」

「恋にライバルは付き物よー!」

「…………」

「自分の気持ち…伊月君に伝えたひー!」

「うん…………」

「手紙?それとも直接?/?」

「直接伝える…………」

「頑張ってね　お姉ちゃん応援してるよー!」

「ありがと…」

「うまく言えるかな…………?」

「フルルルルル…………」

「はい!三枝ですけどー!どうひきまですかー?」

最終話 . . . 大好き

「もしもし？あざわ？」

あがりとじたの、さへな思間に

卷之三

「なんで…？あずさも伊

わたしは……伊戸君を好きにならなかった……」

だつて伊月君しゃべるとあかりの事ばつかり話すんだもん

和！（？）

卷之三

「そ、そつか…ありがと！じゃあまた明日ね！じゃあね！」

二二二一

傳角弓の事未定・柱が生々々々々

「おはよー！和海！美月！」

卷一

「おは

「わかつた！」

卷之三

「中華書局影印」

「あのセ...前から気になつてたんだ...伊月の事...」

「俺を……？」

「うん……」

「…………ごめん…………」

「いいんだよ！気持ち伝えたかっただけだからー……
ちがうよ…………」

「え？…………」

「本当は……俺がお前に告ひつと思つたんだけど…………」

「え…………？」

「俺も……お前が好きだよ…………」

「ありがと…………」

「涙が止まらないよ…………

「泣くなよー嬉 shinjya ねえのかよー…………」

「大好きだよ…………」

「俺も…………」

「もう帰らなきやー……」

「やつだなーー一緒に帰ろうぜーー…………」

「うそー！」

「伊月が『俺も好き』って言つてくれた時……すく嬉しかった…………」

「…………なんか照れるな…………」

「大好きだよ……伊月…………」

「俺もだよ…………」

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4302b/>

~小春日和~

2010年12月31日00時36分発行